

平成25年度 米子高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長は、「生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材の育成」を学校ビジョンに掲げ、総合学科の高校として「夢を描こう『自分色』の」をテーマに各系列でめざす生徒像を示している。本校の新たなステージをめざす教育目標の実現に向け、教職員の学校経営ビジョンの共有化、学校運営組織の再編・見直しを図っている。教職員は熱意をもって丁寧な指導に努めており、学習集団の雰囲気は良好である。本年度、授業改革委員会（学び創造委員会）を立ち上げ、生徒に身につけさせたい学力「主体的に学び、考え、表現できる力」の共通理解のもと、新しい学習科学に基づく主体的な学習への授業改革をスタートさせている。学校の教育課程は幅広く開設された共通科目及び専門科目からなり、大学進学から就職まで幅広い進路に対応している。1年総合学科原則履修の「産業社会と人間」、2年総合的な学習「キャリア教育とプレテーマ学習」、3年総合的な学習「テーマ学習」は特色あるキャリア教育の取組と言える。生徒の活動も活発で、総合美術展、パフォーマンスアーツ（演劇・吹奏楽・ダンス部発表公演）、国際交流活動など展開している。部活動は運動部、文化部とも盛んで優秀な成績を上げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① ホームルーム活動は、学校行事との関連を図り、各内容項目を踏まえた指導計画であり、その中で望ましい人間関係の育成や学習環境づくりの指導により学習集団の雰囲気は良好である。
- ② 総合的な学習の時間は、進路について考察する学習活動として大学教員等の外部人材の活用を図り、1年「産業社会と人間」、2年「キャリア教育とプレテーマ学習」、3年「テーマ学習」の内容改編を検証しつつ取り組み、学習成果は全学年とも学習成果発表会で公開している。
- ③ 学校図書館活動は、テーマ学習等での図書館利用、読書活動での朝読書の取組、積極的な読書案内などにより生徒一人当たり図書貸出冊数、借り受け図書資料は増加し、学習情報センター、読書センターとしての学校図書館運営に努めている。
- ④ 進路指導体制の改革に取り組み、進路指導部と学年担任会の連携した指導体制のもと進学・就職指導、進路相談、進路学習を年間指導計画に基づいて進めている。全教職員の小論文指導、大学・短大等の学校訪問による進路情報の収集、提供に努めている。
- ⑤ 特別支援教育は、校内支援体制を整備し、特別な支援を必要とする生徒の把握、個別の指導計画、教育支援計画の作成までのフローチャートを作成し、教職員に周知する情報交換会、教職員研修会を実施している。年2回の支援対象者の保護者からの情報収集や、新たに個別の教育支援計画が作成しやすいチェックシートを作成している。
- ⑥ 学校に関する情報公開では、学校の教育活動や生徒の活動等をPTA会報をはじめ進路指導室INFORMATIONなどで保護者に届けるとともに、学校ホームページの改編・更新に努め、メールサービスの活用用途の増加と普及促進を進めている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 学校の教育目標達成に向け系列ごとの履修教科の授業充実が重要課題である。年2回の授業公開週間を設けているが、教科別合評会や対外的な授業公開の取組の工夫が求められる。また生徒の授業評価は学年ごとの集計となっているが、個々の教職員の授業改善を求めるものにする必要がある。授業改革委員会（学び創造委員会）を中心に新しい学習科学による主体的な学習や視聴覚機器を活用した授業改革の取組が期待される。
- ② 学校図書館経営は評価できる取組であるが、学校図書館を学習情報センター、読書センター、教材センターとして全校的機関として位置づけるためには学校図書館経営計画及び図書館教育全体計画の策定が必要である。
- ③ 学校の生徒指導は生活指導部、教育相談部、学年担任会が主に担い、全教職員の共通理解のもと生活指導に力を注いでいる。生徒指導は教育課程の内外にわたって働く機能としての教育活動であり、開発的、予防的そして治療的な生徒指導を内容とする生徒指導の全体計画の策定が必要である。
- ④ 自己評価は、重点目標達成のための学校独自事業の実施など具体的取組を評価項目とし、その進捗状況をもって評価基準として評価しているが、具体目標の到達内容や行程を評価指標とする評価基準のあり方の検討が必要である。
- ⑤ 3年保護者アンケートで、学校評価、意見や要望の把握に努めているが、全保護者による学校評価、意見や要望を把握する方策への工夫改善が求められる。